

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成20年8月7日(2008.8.7)

【公表番号】特表2004-513616(P2004-513616A)

【公表日】平成16年5月13日(2004.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2004-018

【出願番号】特願2002-505816(P2002-505816)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/155 (2006.01)

C 1 2 N 7/00 (2006.01)

C 1 2 N 7/02 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 39/155

C 1 2 N 7/00

C 1 2 N 7/02

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月18日(2008.6.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 1 1 2 - 1 3 4 に相当する領域内の変異がアミノ酸 1 1 3 および 1 1 4 の変異よりなる群より選ばれる、モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 1 1 2 - 1 3 4 に相当する領域内に少なくとも 1 個の変異を有する、モルビリウイルス属の、単離され、組換え産生され、非セグメント化された、負センスの一本鎖 RNA ウイルス。

【請求項 2】 ウイルスが、麻疹ウイルス、イヌジステンパーウイルス、牛痘ウイルス、小型反芻動物病ウイルス、イルカモルビリウイルスおよびアザラシジステンパーウイルスよりなる群より選ばれる、請求項 1 記載のモルビリウイルス。

【請求項 3】 アミノ酸 1 1 3 における変異がチロシンからアラニンへである、請求項 1 記載のモルビリウイルス。

【請求項 4】 アミノ酸 1 1 4 における変異がアスパラギン酸からアラニンへである、請求項 1 記載のモルビリウイルス。

【請求項 5】 アミノ酸 1 1 3 および 1 1 4 の双方に変異が存在する、請求項 1 記載のモルビリウイルス。

【請求項 6】 アミノ酸 1 1 3 における変異がチロシンからアラニンへであり、そしてアミノ酸 1 1 4 における変異がアスパラギン酸からアラニンへである、請求項 5 記載のモルビリウイルス。

【請求項 7】 ウイルスが麻疹ウイルスである、請求項 2 記載のモルビリウイルス。

【請求項 8】 麻疹ウイルス V タンパク質のアミノ酸 2 3 1 - 2 9 9 に相当するカルボキシ - 末端 (C - 末端) 領域の少なくとも一部分における変異またはその欠失をさらに含んでなる、請求項 2 記載の麻疹ウイルス。

【請求項 9】 C - 末端領域における変異が、アミノ酸 2 3 3 および 2 3 4 のそれぞれにある、請求項 8 記載の麻疹ウイルス。

【請求項 10】 アミノ酸 233 および 234 のそれぞれにおける変異がアルギニンからアラニンへであるか、またはアルギニンからアスパラギン酸へである、請求項 9 記載の麻疹ウイルス。

【請求項 11】 欠失が、アミノ酸 232 から 299 まで、279 から 299 まで、267 から 299 まで、250 から 299 まで、243 から 299 までおよび 236 から 299 までよりなる群より選ばれる、請求項 8 記載の麻疹ウイルス。

【請求項 12】 変異がアミノ酸 113 にあり、さらに

(a) ヌクレオチド 26 (A T)、ヌクレオチド 42 (A T または A C) およびヌクレオチド 96 (G A) よりなる群より選ばれる 3' ゲノムプロモーター領域内の少なくとも 1 個の弱毒化変異であって、これらのヌクレオチドは正鎖、アンチゲノム性、メッセージセンス中に提示され、そして

(b) 残基 331 (イソロイシン トレオニン)、1409 (アラニン トレオニン)、1624 (トレオニン アラニン)、1649 (アルギニン メチオニン)、1717 (アスパラギン酸 アラニン)、1936 (ヒスチジン チロシン)、2074 (グルタミン アルギニン) および 2114 (アルギニン リシン) よりなる群より選ばれるアミノ酸に変化を生成するヌクレオチド変化よりなる群より選ばれる RNA ポリメラーゼ遺伝子内の少なくとも 1 個の弱毒化変異、  
を含んでなる、請求項 1 記載の麻疹ウイルス。

【請求項 13】 変異がアミノ酸 113 にあり、さらに

(a) N 遺伝子に対して、残基 129 (グルタミン リシン)、148 (グルタミン酸 グリシン) および 479 (セリン トレオニン) よりなる群より選ばれるアミノ酸に変化を生成するヌクレオチド変化、

(b) P 遺伝子に対して、残基 225 (グルタミン酸 グリシン)、275 (システイン チロシン) および 439 (ロイシン プロリン) よりなる群より選ばれるアミノ酸に変化を生成するヌクレオチド変化、

(c) C 遺伝子に対して、残基 73 (アラニン バリン)、104 (メチオニン トレオニン) および 134 (セリン チロシン) よりなる群より選ばれるアミノ酸に変化を生成するヌクレオチド変化、および

(d) F 遺伝子 - 末端シグナルに対して、ヌクレオチド 7243 (T C) における変化であって、これらのヌクレオチドは、正鎖、アンチゲノム性、メッセージセンス中に提示される

よりなる群より選ばれる、少なくとも 1 個の弱毒化変異を含んでなる、請求項 3 記載の麻疹ウイルス。

【請求項 14】 モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 112 - 134 に相当する領域内の変異がアミノ酸 113 および 114 の変異よりなる群より選ばれる、モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 112 - 134 に相当する領域内に少なくとも 1 個の変異を有する、モルビリウイルス属の、単離され、組換え産生され、非セグメント化された、負センスの一本鎖 RNA ウイルスを、希釈剤またはキャリアと一緒に含んでなる、免疫原性組成物。

【請求項 15】 さらにアジュバントを含んでなる、請求項 14 記載の免疫原性組成物。

【請求項 16】 モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 112 - 134 に相当する領域内の変異が、アミノ酸 113 および 114 の変異よりなる群より選ばれる、モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 112 - 134 に相当する領域内に少なくとも 1 個の変異を挿入することにより改変されたモルビリウイルス V タンパク質をコードする単離されたヌクレオチド配列。

【請求項 17】 V タンパク質をコードする単離された核酸分子の部分が、モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 112 - 134 に相当する領域内に少なくとも 1 個の変異を挿入するように改変され、該モルビリウイルス V タンパク質のアミノ酸 112 - 134 に相当する領域内の変異がアミノ酸 113 および 114 の変異によりなる群より選ばれ

る、モルビリウイルスのゲノムまたはアンチゲノムをコードする単離された核酸分子を含んでなる転写ベクターを、キャプシド化、転写および複製のために必要なトランス作用性タンパク質 N、P および L をコードする少なくとも 1 個の単離された核酸分子を含んでなる少なくとも 1 個の発現ベクターと一緒に含んでなり、これにより発現した場合に感染性モルビリウイルスが産生される組成物。

【請求項 18】 請求項 17 記載の少なくとも 2 種のベクターを用いて宿主細胞を形質転換、感染またはトランスフェクションし、そして感染性モルビリウイルスを産生するように、これらのベクターの共発現を許容する条件下で宿主細胞を培養することを含んでなる、感染性モルビリウイルスを産生するための方法。